

第1回和光市協働指針（素案）市民団体意見交換会報告

日 時：平成18年12月22日（月）9：30～11：30

場 所：総合福祉会館3階 第1会議室

参加者：市民団体代表29名・職員6名

1 課長あいさつ

2 指針概要説明・質疑応答

3 意見交換会

- ・グループごとに自己紹介
- ・ワークショップ形式で付せんを使用して意見交換

4 各グループ意見発表（別添資料参照）

- ・1班 山田さん
- ・2班 森田さん
- ・3班 関さん

5 今後の予定・その他

- ・今回の意見交換会のみでは、十分に意見交換ができなかったとの感想が多数あったため、再度意見交換会を開催することとする。

第1回和光市協働指針(案)市民団体意見交換会グループ意見まとめ



指針反映部分	内容(1班)	論点	次回の検討課題
1	趣旨の中に協働とは何であるか説明を入れる(図示する)		図示の仕方は具体的にどのようなにするのか。
	絵・漫画・キャラクターで趣旨を表現する。その際は公募をして、関心を高める。		
2	現状と課題は具体的に書く。協働が不十分なので指針を作る旨を記載。		具体的な内容にはどのようなものがあるか。
2(2)	課題に協働の推進に向けての項目を具体的に記述する		具体的な内容にはどのようなものがあるか。
	課題の共有が協働の第一歩である。		
	壮年期をどう協働してもらうかが大切である。		
3(3)	アダプト制度は持続が大事。花いっぱい運動など、資材の見積もりも十分にを行う。	※	
3(4)	地域で活動している事業(文化・異世代交流)を協働事業に取り込む⇒洗い出し	※	
	アートについてクリエイトすることが入っていない。元気なまちづくりには必要。		文化については、P8の協働がふさわしい事業例に掲載しているが、足りない部分があれば具体的に検討。
3(5)	協働の主体について不足の団体があるのでは？		不足している団体にはどのようなものがあるか。
	社会福祉協議会の位置づけ(市-社会福祉協議会(中核的)-市民団体)		社会福祉協議会の位置づけについて再確認する。
4(1)①	市の各部署の役割がはっきりしない。(イメージが浮かばない)		
	市職員の意識改革と能力向上についてもっと具体的に	※	
	市職員全体の「協働」研修をする	※	
4(2)③	アダプト制度についての結果としての写真コンクール等発表の場をつくらうよ。	※	
4(3)①	総合窓口は市長直轄として調整能力を持った部署とする。	※	
4(4)②	いろいろなボランティア団体が共通理解のもとに連携できると良い。	※	
	市民活動団体が常時使用できる場所を早急に作る(最重要)		
	リサイクル・生ごみ堆肥は良い事。もっと地域に拠点がほしい。(現在2箇所のみ)	※	
	障害者団体としての活動を広く告知・啓蒙したい。また、同じ思いの方の市民の思いを伝える。	※	
	拠点を作る目的は情報の共有		
4(4)③	活動をしていく上で資金がいつまで継続できるか心配。人的確保と経済力の確保が今後の課題になる。		
	生き方・趣味の多様化		
	財政難を創意工夫で。		
	人(市民も職員も)を活かす		財政支援のしくみについて他に盛り込むものがあれば検討する。
	税金(国・県・市)を活かす		
	ムダなく活かす心の交流		
	活動財源を税だけに頼らず、市内の企業、商工会、ライオンズ、ロータリークラブ等と連携してくれる拠点があると良い。		
	指針の中に和光市商工会や企業への協力やパートナーシップについての言葉が必要。		商工会や企業との協働について、どのように具体的に盛り込むか。
	まちづくりに和光市商工会にも参加してもらえないか。		
	和光市内の企業にもまちづくりに参加してもらえないか。		

指針反映部分	内容(1班)	論点	次回の検討課題
【資料】	形態の分類を第三者が判断しては？		どのように第三者が判断するか。
全体	文章は役所スタイルでなく、市民が理解し易いものとする。		指針の役所スタイルの見直しを全体的に行う
	全体にやさしい言葉、文章にする。カタカナや横文字は理解しにくい。		
	「協働」の言葉は国の流れである		「協働」という言葉の見直し、題名等の修正
	「協働」という力を出し合っていく意味を平たく表してはどうか。		
	「協働」の「協」はいい言葉である。		
	「協働」をもっと現代的な名前にする。「パートナーシップ」・「パートナーシップ和光」など。(3件)		
	自分たちのまちなので、じぶんたちで作るのは当然。		
	素案について他市(4市)との意見交換会を持つと参考になる。	※	
	行政用と市民向けを別に作成してはどうか。		
	素案の内容は難しいので、要約版を作る。		

※印のある事項については、今後の具体的事業計画や事務事業を行っていく中で検討

第1回和光市協働指針(素案)市民団体意見交換会グループ意見まとめ



指針反映部分	内容(2班)	論点	今回の検討課題
1	文章が長すぎて分かりにくい。		文章を短くするためには、どの部分を削除すればよいか。
	箇条書きにしてはどうか。		箇条書きの項目はどのようなものがあるか。
2	市民活動をしている団体の紹介をもっとうまく伝える。	※	どのような内容を盛り込むのか。
	情報公開と共にPRの仕方が不足している。		
	協働の環境整備の市民へのPR不足		
	協働は市民参加することが第一であるが市民に情報を与える対策が必要。行政・協働等。		
	協働の取り組みについて情報の共有化の具体的な対策を。	※	
2(1)	自治会について連合会に入っていない自治会についての言及がない。		
2(2)	市民自治の実現、情報の提供を入れる。		どのような内容を盛り込むのか。
	社協のボランティア団体と他のボランティア・NPOとの連絡調整が課題である。		どのような内容を盛り込むのか。
	NPO法人・ボランティア・市民活動等様々あり、定義・まとめ一括統合した組織が明確でない。		どのような内容を盛り込むのか。
	自治会連合のシステムが有効に活用されていない。		どのような内容を盛り込むのか。
	若い世代の市民に地域に対する関心が薄いので、「市民参加」に対する気持ちを高めてもらうためのわかりやすい定義をつくろう。		わかりやすい定義とは例えばどのようなものを考えるか。
3	協働の推進について、行政はプロとして現場に顔を出し、リーダー役を果たす。	※	
	ファシリテーター教育等に若い職員を中心に教育を。	※	
	具体的な教育計画を明示	※	
	地域のコミュニティをしっかりと構築し、それを基本に市と市民が協働を進める。		どのような内容を盛り込むのか。
	市職員と市民がしっかりとパートナーの関係をつくり、協働を推進していく。		どのような内容を盛り込むのか。
3(1)	文章の中に【和光】の文字をおりこんだ言葉遊び的な表現を入れて親しみやすいものにしたらどうか。		どのような内容を盛り込むのか。
3(2)①	市職員は、自分の立場を前に出して、協働関係を進めないように。市民も同じ。		協働を進める上での基本原則について議論を深める必要がある。
3(2)	もっと練りこんだ方がよい。議論不足である。		
3(2)②	自立とは何を指して自立とするか。		
	行政の自立とは具体的に明示する。		
	自立より自主である。		
3(2)③	対等、自立でなく、市民の意見のもとに行政が動くという表現を望む。		
	対等という考え方をきちんと議論した方がよい。		
	対等よりパートナーシップがよい		
3(2)④	市民が老若男女問わず参加したくなるような繰り返しの情報公開。		
3(3)	協働は事業にのみ反映されるものではないのではないか。		
	10頁の4(1)③市民と市の相互理解の推進の内容を組み込むことが必要		
3(5)	主体の区分はこれでもいいのか。(ボランティアなどの言葉を出した方がよいのではないか)		主体の区分について具体的に検討する。
	主体を一項目増やす。(社会福祉協議会・ボランティアセンター)		増やす項目の名称・内容・特性・効果について検討する。

指針反映部分	内容(2班)	論点	次回の検討課題
4	市民の協働に対する意識の向上(何でも市に要望するのではない)		どのような内容を盛り込むのか。
4(1)②	地域リーダー養成塾などを入れる。	※	
4(1)③	審議会などを入れる。		どのような内容を盛り込むのか。
4(2)	情報の吸い上げについての項目を追加する。		どのような内容を盛り込むのか。
4(2)②	メールマガジンの発行	※	
4(3)①	総合窓口はどこになり、いつから設置するかを明記する。	※	
4(3)②	庁内の推進体制の整備をし、統一する。	※	
4(3)②	推進組織の設置をいつからか明記する。	※	
その他	この指針に基づいて、市民と協働で具体的な実行計画を策定するという文言を盛り込む。		実行計画について盛り込むことを検討。
	伝統文化を希望者誰にでも伝え教え守っていききたい(ささら獅子舞など)	※	

※印のある事項については、今後の具体的事業計画や事務事業を行っていく中で検討

第1回和光市協働指針(素案)市民団体意見交換会グループ意見まとめ



指針反映部分	内容(3班)	論点	次回の検討課題
1	策定の主体が市になっている。指針策定の共有が必要		
1、2	「策定の趣旨」「現状」「課題」の文章を箇条書きにし、簡潔に書く		どのように箇条書きにしたらよいか。
3	各テーマ毎に実行計画書を作成し、管理する。(日程・役割・目標)	※	
3(2)①	各団体が各課に所属して横のつながりを持てるようにすることが重要	※	
3(3)	「協働」の形態は範囲が広すぎて曖昧である。「補助」や「後援」を除外してはどうか。		市としては、補助や後援についても、協働の形態として考えていますが、除外した方がよいか。
	形態の固定的ではない弾力的運用(新たな協働の形の創出の余地)		弾力的運用についてどのように盛り込むか
4	各々の活動が市民に理解される仕組みが大切		どのような内容を盛り込むのか。
	参画は一部市民に片寄らないように配慮すること		どのような内容を盛り込むのか。
	各テーマ別の成果(事例)の発表会を開催する。	※	
	市と協働のパートナー双方の合意を盛り込んだ協定書等の手続を明記する。	※	
4(1)②	「協働意識の啓発に努めます」に市民側も主体となるようにする		どのような内容を盛り込むのか。
4(2)②	日々の情報を出す。 広報に協働事業のダイジェスト版を出す 図書館にダイジェスト版を置いておく。 HPを更新する。	※	
4(3)②	第三者評価は各テーマごとに行う必要もある。	※	
4(3)③	アダプトの表現は好ましくない。名称を変更してはどうか。		アダプトという表現の使い方について検討する。
4(4)	①②③を図で示す。		どのような図で示すか
	「協働の環境整備」を「協働の条件整備」にする。		「協働の条件整備」とすることについて検討する。
4(4)①	数多くの団体を効果的につなぐコーディネーターは特に重要であり、協働事業を各地域で効果的に行うには、各地域ごとにコーディネーターが必要である。	※	
4(4)②	「拠点を整備します」を「拠点を市民と共に構想し、整備します。」		「市民と共に構想し」の部分盛り込むことについて検討する。
4(4)③	補助金支援について自立するまでの期限を有限でなくしてほしい。中途半端に終わってしまうものもあるため。	※	
全体	「市側」が主体となった指針である。市民側がすべきことも明記すべきである。		市民側がすべきことを盛り込むことについて検討する。
その他	「見直す」という文言を入れる。		指針を見直すことについて盛り込むことを検討する。

※印のある事項については、今後の具体的事業計画や事務事業を行っていく中で検討